

# 水谷公民館だより

編集委員会 水谷公民館だより編集委員会 富士見市水谷1-13-6  
発行 水谷公民館



↑こちらのコードから色鮮やかなカラー版をご覧ください。(1月1日以降)



令和4年4月10日が市制施行記念日です

★富士見市★  
市制施行50周年

## 激動の水谷50年

### ①人口から見る発展

時の流れは速く非情にさえ感じることがあります。私が昭和51年に富士見市に来てから、45年の時がたちました。  
みずほ台駅開業の1年前でしたので、歩いて1時間程かけ、志木駅を利用していました。都内から移り住んだこともあり、冬の時期の砂ぼこりを見たときは少し寂しさを感じたことを思い出します。

当時は、みずほ台西口から川越街道に向かった所、三芳町との境あたりは畑でしたが、遺跡の発掘が盛んに行われており、珍しさもあって、暇があると細い畑道を通り見学に。  
我が家の近く、東上線を挟んだ針ヶ谷は、小規模ながら森があり、うぐいす・めじろ、田んぼ・沼地には、うなぎ・ザリガニなど懐かしさが蘇ってきます。隔世の感とはまさにこのことでしょうか。自然が無くなる代わりに利便性が増す。これも致し方ないのかなと妙に納得してしまいます。

名実共に富士山の見える富士見市、すばらしい財産です。市民の皆さん、そして市政に携わる皆さんの知恵と努力で富士見市が活気のある住みよい街、住みたい街になることを願い、市民の一人としてこれからも共に歩んでいきたいと思っております。  
担当 河野編集委員

\*これから1年をかけて、市制施行50周年にちなみ水谷地区の50年に関する特集を予定しています。  
水谷公民館だより編集委員会

### 発展の経過

1) 市全体では  
富士見市は、昭和31年9月に鶴瀬村、南畑村、水谷村の三村合併により富士見村ができたのが始まりです。  
昭和39年4月に町になり、昭和47年4月には市になりました。

市の人口増のきっかけは、昭和32年11月の鶴瀬団地の入居開始で、東京のベツドタウンになったのが始まりです。昭和37年に鶴瀬第二団地ができ、この頃から鶴瀬駅周辺を中心に中低層アパートや分譲地が販売され、鶴瀬駅周辺が大きく発展しました。

2) 旧水谷村では  
水谷東を含む旧水谷村は、三村合併後昭和32年の2660人から昭和36年でも2628人と、人口の増減がほとんどありませんでした。  
昭和36年7月に、現在の水谷東公民館

参考資料

○『区画整理誌』富士見市みずほ台土地区画整理組合、1980年  
○『みずほ台に今昔』水谷公民館新館10周年記念事業実行委員会、1991年

○『竣工記念誌』富士見市針ヶ谷特定土地区画整理組合、1999年  
○『富士見市史 通史編下巻 資料編6現代』富士見市教育委員会

○『文中の人口は、住民基本台帳による(旧水谷村、みずほ台土地区画整理事業の箇所を除く)』  
○『富士見市の商店街』富士見市市民部商課、1994年



西みずほ台、駅前広場周辺 (みずほ台土地区画整理誌より)

区の一部、当時三丁目と言われていた場所、150区画の分譲住宅が販売されたのが旧水谷村の発展の始まりです。  
旧水谷村の人口は、昭和41年には5768人となり、三村合併時より2倍以上に増えましたが、この人口増は「現水谷東地区での開発」であると当時は言われていました。

3) 水谷地区では(第一の波)  
昭和38年から寺下地区(現貝塚町会)でも開発が始まり、昭和41年を境に他の水谷地区全体で、特に水子地区を中心に徐々ではあるが住宅が建てられるようになってきました。市になった昭和47年には旧水谷村の人口は1万4200人に、市になった5年後の昭和52年には1万7071人と、三村合併時の6倍以上に増えました。

また、水谷地区の人口増に伴い多くの商店が開店し、昭和44年4月に寺下商店会が設立されました。これが水谷地区の商店会の第1号です。昭和51年には、打越商栄会が設立されました。

### みずほ台駅の開設

この頃、水谷地区の人たちが熱望していたのは、東武東上線の新駅開設です。昭和2年に、し尿積み下ろし用の仮設ホームができ、昭和26年に仮設ホームが拡大されて電車の交換施設が設置されたのをきっかけにして、新駅設置の実現が希望へと変わりました。  
昭和28年から水谷村(三村合併以降は、

富士見村)と東武鉄道との間で何度か話し合いがもたれていましたが、新駅設置にはいたりませんでした。

次に大きく動きだしたのは、昭和37年に水谷農協を中心にして地主会が結成され、富士見町と三芳村と共同で「みずほ台駅設置促進委員会」を設け、東武鉄道等との話し合いがもたれましたが実現できず、昭和42年には断念にいたりしました。しかし、昭和44年に「区画整理準備委員会」が発足し、昭和45年にみずほ台地区が市街化区域に編入されたこともあり、東武鉄道側が「区画整理事業が実施されれば、新駅を開発する」との方針を示しました。これにより昭和52年10月に、みずほ台駅が完成しました。

### 爆発的な発展(第二の波)

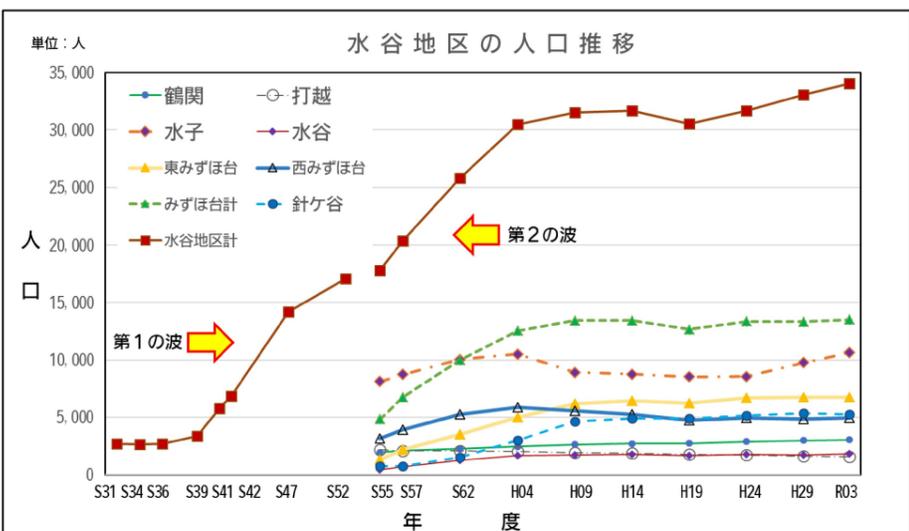
みずほ台地区の発展は、みずほ台地区とそれに続く針ヶ谷地区の区画整理事業と、新駅設置が大きく寄与しています。  
みずほ台地区の区画整理事業は富士見市での区画整理事業の第1号で、第2号が針ヶ谷地区です。みずほ台地区の対象地域は、現在の水谷1丁目・2丁目、東みずほ台1丁目から4丁目までおよび西みずほ台1丁目から3丁目までの施工面積87.5haです。針ヶ谷地区は現在の針ヶ谷1丁目・2丁目を対象地域で、施工面積42.5haです。

このみずほ台地区の区画整理事業対象地域の人口は、昭和41年で115人。事業開始の前年度の昭和45年でも833人でしたが、事業が終了した昭和54年度には4843人と約40倍に増えました。  
また針ヶ谷地区は、事業が開始したこの昭和55年には732人に留まっていた人口が、事業が終わりに近づいた昭和62年には1496人に、事業が終了した平成7年には4333人と、当初の約6倍になりました。

みずほ台駅周辺の整備により、大型店舗や各種商店が開店し、東口には東みずほ台商店会が、西口には西みずほ台商店会が相次いで設立されました。また、みずほ台まつり、東みずほ台まつりが開催されるようになり、活気ある街が形成されました。  
そして、三芳町に平成8年4月に淑徳大学ができ、みずほ台駅西口では、若い人たちが闊歩している様子は、今では見慣れた風景になりました。  
就学人口増が起き、小学校は関沢小学

### 第三の波の到来

水谷地区の発展は、現貝塚町会の開発をきっかけとした大字水子地域が第一の波、区画整理事業と新駅開設を軸としたみずほ台・針ヶ谷地域が第二の波であったと言えます。  
平成22年に水子地区が市街化調整区域から市街化区域になり、大字水子、水谷1・2丁目では一戸建て新築ラッシュが起きています。これは、水谷地区での第三の波が始まっているのでは、と思えます。次号の公民館だよりで特集したいと思います。(記 水谷公民館だより編集委員会)



※「水谷地区計」は、S52以前は旧水谷村の地域、S55以降は下記地区の合計をさす。

「みずほ台計」は、水谷・東みずほ台・西みずほ台の合計をさす。

(鶴岡・鶴馬2丁目・関沢1丁目 打越・鶴馬3丁目 水子・大字水子・貝塚1~2丁目 水谷・水谷1~2丁目 東みずほ台・東みずほ台1~4丁目 西みずほ台・西みずほ台1~3丁目 針ヶ谷・大字針ヶ谷・針ヶ谷1~2丁目)